

第10回 児童生徒地図作品展

作品づくりを通して、地図に興味や関心を持ち、生活の中で使いこなす力を高めることを願って始まった児童生徒地図作品展は、10回目を迎えました。今年は、県内の小・中・高等学校から310点の応募がありました。力作揃いの作品の中から16点の入賞作品、44点の入選作品が決定しました。

子どもたちの地図作品の魅力

(1) 生活の中から絞り込まれる魅力的なテーマ

学校での学習の中で、毎日の遊びの中で、新聞やテレビを視聴する中で、疑問に思ったことや、発見したこと、もっと考えてみたいこと等が、テーマに結びついています。「～についてもっと詳しく知りたい!」「みんなに知らせたい!」というその子らしい素直で、強い願いが作品からあふれ出ています。



「Wind-eco
地球温暖化防止への日本各地の挑戦」
岐阜大学教育学部附属中学校 2年 内海 美波



「金華山を制覇 夏の陣」
岐阜大学教育学部附属小学校 5年 加藤 祐奈



「さようなら路面電車長い間どうもありがとう」
岐阜市立本荘小学校 4年 近藤 幹大

(2) 独創的な地図づくり

どの作品も世界でたった一つの地図です。その子だから考えられた、テーマへの取り組み方（地域探検・情報収集など）、地図表現の工夫（材料選び・画面構成・色づかいなど）、地図づくりを通して得た気づきや地域への愛着などが、見る人をひきつけます。

パソコンやカメラやコピー機などを子ども達が楽に操作できる時代です。しかし、観察したことを自分の手で絵や文に表現することは、理解や思考を深めたり、見る人に自分の考えを伝えたりする上で不可欠だということを作品が教えてくれています。



「ぼくのざりがにちず」
大垣市立東小学校 1年 岩下 祐輝